

令和7年度第1回桑名市ブランド推進委員会 会議概要

日時・場所	令和7年10月23日(木) 10:00~12:00
出席者	委員： 6名 市長： 1名 事務局
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 桑名ほんぱく 2025 について (2) パブリックリレーションズ事業について 4 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) スタートアップ共創推進事業の取組について 5 その他 6 閉会
概要 (主な意見)	<ol style="list-style-type: none"> 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 桑名ほんぱく 2025 について <ul style="list-style-type: none"> ○地元が大好きな高校生や大学生が各国の言語を操りながらボランティアでガイドをしている地域がある。ほんぱくでも学生が活躍できるような場があると良い。企業と学生が繋がることで新たなネットワークが生まれる。ほんぱくが出会いの機会のハブになれると良い。 ○ほんぱく開催期間は会場まで周遊する観光バスがあると良い。モビリティはとて重要で、ほんぱくでもいろいろな手段があると良い。 ○紙のガイドブックを作られたところを評価する。高齢者が多い中ですごく大事。ホームページの検索機能があったほうが良い。また日本語だけなので少しでも英語表記があると良い。ブラッシュアップさせて英語のニーズを増やして欲しい。 ○ジャンルの比率について、アンケート結果から求められた比率になると良い。事務局がニーズに合わせてどう編集していくかが重要になってくる。 ○参加したい企業や事業者を支援する仕組みがあると良い。ほんぱくの認知度が高まっていることは素晴らしいし、違う事業者との連携で新しいものが生まれると良い。 ○立ち上げたときから10年目のほんぱく、20年目のほんぱくで、何が正解が見えてくると良い。また、事業者がほんぱくを経て成功した事業の事例を紹介できればすごく良い。 ○プログラム数が目立っているが、ほんぱくのあるべき姿は文化の部分で一旦途絶えてしまったものを掘り起こす、それができればすごく意味のある事業になる。 ○10年やってきて過渡期なのかなと思う。1つは民間委託、この収入の中で何とかするのは厳しい。編集者をある程度育ててプログラムの価値を高めるところまで誘導できるといい。英語表記についても語学対応でき

るのかという問題もありハードルが高そう。そこのサポート体制があればいいがコストの捻出をどうするのか。

○儲かることだけやったらいいのかとは多分違う。金額だけの尺度じゃない。民間にという流れはありつつも、どう行政が応援をしていけばいいのか、人としての応援だったり、何かそういうことでどうしたらいいかしっかり考える必要がある。

○もともと民間にという話であったが、実際、価値をどう高めるかという話をしなくてはいけない。見せ方を際限なく広げていくのか、より桑名らしい特化型な方向性でいくのか、次へのいいタイミングであるのでしょうか議論したい。

(2) パブリックリレーションズ事業について

○ほんぱくのガイドブックには掲載がなかったが、ほんぱくと連携しているのは良い。

○変えていっているのが素晴らしいと感じた。良い要素が桑名には沢山あるため、お金はいろんなところから持ってくる形で、市の財源を使うよりもどう行くと他の財源をつくれるのかという視点で中期的に作ると良い。最近では地域ファンドを活用するのがトレンドとなっている。

○イングリッシュフレンドリーシティもようやく一歩踏み出した感じだ。10年後でもおそらく英語ができるできないではない時代が来ていると思うから、親しむことからできたら良い。

○令和7年の説明の前に「桑名はこういう方向に進む」という説明があればわかりやすかった。長期的なビジョンの中での役割、桑名の方向性の説明があるとわかりやすい。

○非常にセンシティブな話になるが英語で交流できる姉妹都市があると良い。扱い方は難しいが桑名の姉妹都市は大事。振興がどんどん減り、単独で成り立たなくなってくる中で、イングリッシュフレンドリーシティも周りの地域との繋がりや協力も必要になってくる。

○インスタグラムの更新頻度は非常に重要。2025年の情報がまだインスタグラムに入っていないことは機会が失われている。今後のイベントもインスタグラムにあげておくと機会損失を防げる。

○走り出しではあるが素敵な未来の匂いを感じた。イングリッシュアドベンチャーは子どもだけではなく、親御さんも参加できるグローバルなマルシェなどを連携させるなどして、まとめて取り込めると良い。

4 報告

(1) スタートアップ共創推進事業の取組について

5 その他

○多度エリアマネジメントより『T. A. D. O Market』について紹介